

市長記者会見記録

日時：2022年11月21日（月）14時00分～14時49分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：令和4年度「かわさきマイスター」を認定しました（経済労働局）

令和4年第5回川崎市議会定例会議案等について（総務企画局・財政局）

市政一般

<内容>

《令和4年度「かわさきマイスター」を認定しました》

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。本日1つ目の議題は、「令和4年度『かわさきマイスター』を認定しました」となっております。初めに、令和4年度「かわさきマイスター」に認定された皆様を福田市長から発表いたします。市長、よろしくお願いします。

【市長】 それでは、令和4年度「かわさきマイスター」に認定いたしました5名の方々を御紹介いたします。本市では、市民生活の向上や産業の発展を支える優れた技術・技能の振興・継承を目的として、平成9年度に「かわさきマイスター」制度を創設し、毎年、公募により候補者を募り、特に優れた技術・技能をお持ちの方を市内最高峰のたくみ「かわさきマイスター」として認定しております。

今年度は15名の方々から御応募があり、かわさきマイスター選考委員会において慎重な審議を行っていただき、本日御出席いただきました5名の方を令和4年度の「かわさきマイスター」に認定いたしました。今年度の認定者5名に加え、これまでに78職種、119名の方々が「かわさきマイスター」の認定者となりました。マイスターに認定した方々は職種は様々ですが、共通していることは、卓越したたくみの技を保持されているだけでなく、自らの技術・技能の継承や後継者の育成にも日々積極的に取り組まれているところにあります。

また、今年度は、大浪さん、田中さんにつきましては、両名ともお父様が「かわさきマイスター」であり、その技術・技能を継承され、今回認定に至ったことが際立っております。今後も本市の技術・技能の発展のため、お力添えをいただきたいと存じます。

それでは、5人の方々につきまして五十音順に御紹介をさせていただきます。

初めに、大浪友和さんでございます。職種は金属ヘラ絞りでございます。大浪さん

は、高津区新作にある有限会社相和シボリ工業の代表取締役を務められ、お父様の大浪忠さんは、平成23年度に認定された、同じく金属ヘラ絞りのマイスターです。金属ヘラ絞りは、回転する円形の金属板に、ヘラと呼ばれる真ちゅうやローラーがついた棒を押し当てて、繊細な曲線形状を高い精度で成型する技能です。

金属ヘラ絞りは、工業部品ではロケットや新幹線の先端部のほか、身近なものではタンブラーなどの生活用品もあり、大浪さんが手がけるタンブラー「金胎麗漆（きんたいれいうるし）」は、本市のふるさと納税返礼品に登録されているほか、川崎ものづくりブランドにも認定をされています。

続きまして、田中信司さんでございます。職種は食品サンプルでございます。田中さんは、宮前区水沢にあります有限会社つかさサンプルの代表取締役を務められ、お父様の田中司好さんは、平成21年度に認定された、同じく食品サンプルのマイスターです。食品サンプルは、本物の食品から型を取り、ビニール樹脂を用いて製作されます。田中さんは、あらゆる食品や料理のサンプルを店頭用に作るだけでなく、広告や映画用にも製作し、食欲を刺激するみずみずしい感覚を表現することができる技能者でいらっしゃいます。

続いて、中村新一さんでございます。職種は、一般精密板金加工・銅管パイプ加工・銀ろう付けでございます。中村さんは、高津区下野毛にある有限会社トワダにおいて、現在の社会生活には欠かせない半導体や液晶パネル等を製作するための製造装置に組み込まれている銅管パイプ加工品を製作されています。様々な治具や工具を考案し、通常は各分野の専門の職人が手がける工程を1人で担いながら、信頼性の高い加工を行うことができる技能者でいらっしゃいます。

続いて、前濱政次さんでございます。職種は三線（さんしん）職人でございます。前濱さんは、多摩区生田にあります前之浜三線工房において、これまで40年以上にわたって沖縄の伝統楽器、三線を製作してこられました。三線は手作業で作られることが多く、同じ作り手の三線であっても形や質に差が生じる場合がありますが、前濱さんは自作した機械で良質の三線を作ることができます。また、前濱さんが製作される三線は、来月12月から川崎市ふるさと納税返礼品にも登録予定となっております。前濱さんは三線製作の研修を行うなど様々な活動を展開しておられ、現在はお嬢様にもその技能を継承されています。また、自らも演奏活動を続けているということでしたので、この後、自己紹介の中でぜひ1曲御披露いただければと考えております。よろしくお願いいたします。

続いて、三田村宏宣さんでございます。職種は、精密研削加工でございます。三田

村さんは、高津区梶ヶ谷にある三田工機株式会社の3代目の代表取締役であるとともに、精密研削加工の技能者でもあります。製作されている特殊研削工具や精密治工具は、様々な製品やパーツを量産するための重要な工具であり、ディーゼルエンジンの燃料噴射ポンプや印刷機の転写用シャフト等、高い精度が必要とされる製品の製造を支えています。三田村さんは、熟練工が使用する多種の「汎用機」と呼ばれる機械で、長年の経験、ノウハウのみならず、目や耳、指先の感覚を研ぎ澄ませることで高難度の加工を行うことができます。

以上、皆様方の職種は様々でございますが、いずれもその分野で錬磨と精進を重ねられ、高度な技術・技能を身につけられた方ばかりでございます。長年にわたる研さんにより、その道を極められ、後進の目標となられた皆様の御努力に敬意を表するとともに、今後ともすばらしいたくみの技を生かし、市内最高峰の技術・技能職者として、引き続きものづくり都市川崎を支えていただくようお願い申し上げます、私からの御紹介とさせていただきます。

【司会】 ありがとうございます。

続きまして、今年度、「かわさきマイスター」に認定された方々から一言ずつ御挨拶をいただきます。マイスターの皆様は、私がお名前をお呼びいたしますので、演台にお進みいただきまして、御挨拶をお願いいたします。

まず、大浪友和様、よろしくお願いします。

【大浪様】 こんにちは。有限会社相和シボリ工業、大浪友和と申します。今回、ヘラ絞り製品ということで、このような形状の形の品物を1枚の円盤状の板から成型するという加工法でマイスターに認定いただきました。先ほども御紹介いただいたんですけれども、父親がマイスターということもありまして、マイスターについては元々身近な存在でもありまして、また、そのことによって目標であったり憧れという存在でもありました。私は18歳の頃から父親とは仕事をともにしてきてまして、その中で技術とか加工法を学んできたんですけれども、そういったものをこういったものに活用して製作することができました。

今回のように、自社製品ということで、こちらのステンレス製品については、行政にお力をお貸しいただきまして、川崎のPR製品事業ということで製作を行いまして、そこにさらに付加価値をとということで、漆を塗り、「金胎麗漆」という製品になりました。今後はこのようなものづくり、ヘラ絞りというものを皆さんに知っていただくとともに、若い方々にもいろいろ知っていただきまして、そういったものづくりの魅力であったり、若い人たちが将来、仕事として選んでいただけるような魅力のある製品

作りを目指していきたいと思っております。

最後に、いろいろとこのような形で応援していただいた行政の方々であったり、あとはタカツクラフトのメンバーにも温かく応援していただきました。さらには、両親にもいろいろ教えていただいたり育てていただき、また、妻にもサポートしていただき、今回、マイスターを取れたと思っております。この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

【司会】 ありがとうございました。

続きまして、田中信司様、よろしくお願いいたします。

【田中様】 はじめまして。宮前区で食品サンプルの製造・販売をしまして、今年で49年目になります有限会社つかさサンプル代表取締役の田中信司と申します。主に仕事としては、食品サンプルのレストランとかに飾る商品作りをしている傍ら、映画やテレビのCM、あとはアミューズメントパークの展示物なんかも最近は手がけるように、御注文いただけるようになりました。

今回は、持ってきましたしゃぶしゃぶの肉、立ててもこぼれません、触ってもべたつきません。もちろん食べられません。この霜降りの細かいサシの部分、写真やシールなんかで加工する技術はよくあるんですけども、当社は全て手作業で、手書き、霜降りのサシ部分を細かく忠実に、お客さんの要望どおりの細かさ、そういう繊細な部分も作れるよう、長年自分なりに研究をして、この作り方を開発しました。よそではなかなかできない細かい作業だと自分で思っています。今回はその辺も評価していただいて、大変光栄に思っています。

21年度に父がマイスターに認定されまして、その頃から助手としてマイスター事業に参加させていただいたんですけれども、その頃からマイスターというものに興味を持ち、自分もマイスターとなり、川崎市内外でも食品サンプル並びにものづくりにもっと興味を持っていただこうかなと思ってマイスターに募集しました。今後ともマイスターになった肩書を大事にして、ものづくりというものを広めていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

【司会】 ありがとうございました。

続きまして、中村新一様、よろしくお願いいたします。

【中村様】 皆さん、こんにちは。私は、有限会社トワダの中村新一と申します。本日は、「かわさきマイスター」の認定をいただき、誠にありがとうございます。仕事の内容は、精密板金加工、銅管パイプ加工、あと、これに部品をつけるろう付け、銀ろう付けという仕事です。私の作成した製品は、現在の社会に欠かせない半導体や液晶

パネルの製造装置の中に、主に冷却装置として組み込まれます。仕事の詳しい内容は皆、市長さんに言われてしまったので、あとは、長年独学で試行錯誤して身につけた技術で、3つの仕事を1つでできるようになりました。

初めの頃は、これは外注に出していたんですけども、そこがやらなくなったので、自社で作るように、最初から、一からやりました。これも会社の皆さん、家族の支えがあり、ここまで来れたと思います。これからもまだまだ技術を向上させ、また、積み上げてきた技術はうちの後輩にも伝えていきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

【司会】 ありがとうございました。

続きまして、前濱政次様、よろしくお願いいたします。

【前濱様】 こんにちは。多摩区生田で沖縄の三線を製作・販売している前之浜三線工房の前濱政次と申します。私は出身が沖縄の離島、八重山諸島の与那国島という、日本から一番遠いところの小島なのですが、小さいときに娯楽やおもちゃやそんなぜいたくなものはなく、沖縄の音楽、ミュージックをずっと有線ラジオで聞いていて、その歌を歌うことぐらいしか我々が若いときにはなすすべがなく、三線を弾くようになりました。それも高校に入ってからです。島には高校がないですから、石垣島に高校1年のときに渡って、親戚のうちで下宿することになって、床の間に三線が置いてあったので、沖縄では平和の象徴として床の間に三線を飾るんです。よく言われることは、内地では日本刀、物騒なものを飾るというんですけど、沖縄では三味線を飾る、その大事な三線を使わせてもらって、独学で三線を弾き、だんだんうまくなると、今度はマイ三線を持ちたいということで、自分で琉球黒檀、三線の材料なんですけど、このさお材が琉球黒檀です。これを山から切り出して、8年から10年乾燥させて、その当時は自分でまだ作れないから、三味線大工というんですけど、三味線を製作することを三線打ちと言うんですけど、そこへ頼んでマイ三線を作るんですが、1本の木から、大体1本切り倒すと3本取れるんですが、下から質のいいやつ、1番、2番、3本目は、もうこれは作り物にならないから持って帰れて言われて、これ、どうするんだいって言ったら、薪にするなり切って捨てるなりと言うから、そんなことできないって言って。重たい思いをしながら自分で山から切り出したやつをそう簡単に捨てられないって、それがたまってたまって、いよいよ自分で作らなきゃいけないと。そのことで三線を作り始めました。

今では三線を弾いていると、最近は本土の方が多いんですが、弾いている仲間でもやっぱり、自分の三線を作りたいなということで、うちで三線製作の研修もやらせて

います。今、10人ほどの研修生は三線を一人前に作れるようになっていきます。私もそう先が長くないですから。原材料は切り出して保管してあるやつ、買い込んだのもあるんですけど、あと200本ほどあるので、これを作って完成させてから死になさいます。たまたま娘が後を継ぐということで、何とか継いでもらおうということで、今、着々と進めているところでございます。

以上、よろしくお願いいたします。

【司会】 前濱様、少し演奏してくださるとお伺いしているので、もしよろしければ。

【前濱様】 ほんのさわり程度になりますけれども。沖縄の三味線が、沖縄では3本の線と書いて三線と。中国の流れで、中国の原形がサンシンと言ったことからサンシン、なまって三線になります。さおは琉球黒檀、特に八重山黒檀がいいとされています。これはニシキヘビ。昔はこういう皮はなかったんです。昔は犬、猫の皮か、さらし、芭蕉（バショウ）のあくで塗って固めて使っていた。これ、ニシキヘビですから、今、かなり強く張っていますから、かなり高音が出ますけど、昔はこんなに高い音が出なかったんですね。このニシキヘビはワシントン条約に引っかかるんでねえのとよく言われるんですが、これは一応法的には引っかからないということで、しかも養殖を使わせていただいています。沖縄では取れません。ですから、ベトナムとか東南アジアとかから輸入したものを我々は使わせてもらっています。じゃ、世界的に知れ渡っている「安里屋ユンタ」という歌を歌わせていただきます。

（三線演奏）

【司会】 どうもありがとうございました。（拍手）

それでは、最後に三田村宏宣様、よろしくお願いいたします。

【三田村様】 特に歌とかないのであれなんですけど、聞いていただけたらと思います。ただいま御紹介にあずかりました三田工機株式会社、三田村と申します。このたびは、「かわさきマイスター」に御認定いただきまして、ありがとうございます。私は、精密研削加工を中心に金属加工を続けてまいりました。今年で27年目になります。

弊社の製品は、なかなかふだん皆様の目に届く部分にはございませんが、弊社の製品がなくてはならないということで、そういったものはものづくりには欠かせないものとして、お客様から重宝されております。特に、そういった製品を作るのには、機械を自身の手を操るかのごとく操作する必要があります。私は、多種の機械を長年の経験から使いこなせるようになりました。技術の進歩とか機械の進歩、最近ですとIT化、かなり進んできてはおりますが、やはりそういったところにも、まだまだ基

礎の技術、手で培ってきたことも必要になっております。

弊社では、後進の指導に対しては、今までのO J Tだけではなくて、A Iとか新しいものも取り入れてやっております。社内の技能継承のみならず、市内の製造業、まだまだたくさんの仲間もごさいますので、そういったところに波及効果として、弊社でやった取組を紹介できればと思っております。技能の継承、皆様と私の技能も違うわけなんですけれども、そういったところは、手についているもの、それから頭で考えているもの、その辺を伝えることが難しいと思っておりますので、これからは伝えることにより力を入れて、私の今まで持ってきた、作ってきたものを作り続けられるようにしていきたいと思っております。

簡単ではございますが、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

【司会】 ありがとうございます。

それでは、質疑応答に入ります。なお、市政一般に関する質疑については、この後、2つ目の議題の説明と質疑が終了後、改めてお受けいたします。進行につきましては、幹事社各社の皆様、よろしくお願いします。

【毎日（幹事社）】 せっかくなので市長のほうに、マイスターの皆さんに、今後の活動で特に期待することがありましたら教えてください。

【市長】 マイスターには、マイスターまつりですとか、ほかにも年間を通して様々なイベント等に御参加をいただいて、たくみの技を御披露いただいております。一般の方にはそういうことをやっていただく一方で、先ほどもございましたとおり、後進をしっかりと育てていただくということが、持続的な川崎のものづくりのまちを支えていくことになるので、ぜひそこには大きく期待をさせていただきたいと思っております。いずれの方も、やはり後進の指導はすごく力を入れていただいているので、そこは共有させていただいていると思っています。ぜひそういったところに期待したいと思っています。

【毎日（幹事社）】 ありがとうございます。

あと、各社の皆さん、よろしくお願いします。

【東京】 東京新聞です。今日はおめでとうございます。皆様の肩書を御確認させていただきたいんですけれども、「代表取締役」という表記が新聞でしづらいものですから、代表とか社長とかいうのであれば、どういうふうなものになるかということと、あと、中村様は社員という表記でよろしかったかどうかということ。皆様にお一人ずつ確認をさせていただけたらと思うのですが。

【司会】 大浪様から順番に。

【大浪様】 自分は一応社長で問題ないと思います。

【司会】 田中様、お願いします。

【田中様】 自分も社長で問題ないです。

【司会】 中村様、お願いします。

【中村様】 私は一度、定年退職になったんですけれども、仕事を辞めないでほしいと社長に言われて、体が動かなくなるまで働けと言われましたので、そういう立場です。

【東京】 従業員と……。

【中村様】 そうですね。従業員で結構です。

【司会】 前濱様、お願いします。

【東京】 先ほど伺ったんですが、代表で。

【三田村様】 はい。私、社長で大丈夫です。

【東京】 ありがとうございます。

続いて申し訳ないんですけれども、私、田中様には実は、お父様がマイスターを取られた直後にお父様を取材させていただいたことがありまして、会社にも伺わせていただいたりしたんですけれども、大浪様と田中様、それぞれ今回の認定に対して、お父様からどのようなお言葉をかけられたかということをお伺いしてもよろしいでしょうか。

【司会】 まず、大浪様からよろしくをお願いします。

【大浪様】 認定いただいたことで、本当に単純におめでとうございまして、父がやってきたことが間違いなかったんだなということと、あとは息子にちゃんと受け継ぐことができたなということで、多分、父親も安心しているのではないかと思います。

【司会】 続きまして、田中様、お願いいたします。

【田中様】 私も、父がマイスター、最初は父に推薦していただくかと思って交渉したんですけど、自分でやれと。そういうのは自力で勝ち取るものだぞと、そういうことなんだろうと思って、自分の手で何とかこのマイスターの座を取ったんですけれども、父は大変喜んでいてと思います。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに、御質問いかがでしょうか。本日の認定者の方々の製品は、記者会見終了まで後方に展示をさせていただきますので、記者の皆様にはぜひ後ほど撮影をいただければと思います。

【読売】 読売新聞ですけれども、前濱さん、お名前の漢字、ハマが難しい字でいらっしゃるって、これはこの字を御希望ですかね。新聞は結構簡単な字を代わりに充てることがあるんですけど。

【前濱様】 どちらを使っても構わないんですけど、正式に役所へ提出する書類は戸籍のとおり出ささいというので、あえて難しい「濱」を使っています。

【読売】 各社それぞれ都合によって、簡単な字を充てても支障はございませんか。

【前濱様】 問題ないです。

【東京】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 そのほか、よろしかったでしょうか。

続きまして、市長を囲んでの記念撮影をいたします。セッティングに少しお時間を頂戴いたします。御了承ください。

(写真撮影)

《令和4年第5回川崎市議会定例会議案等について》

【司会】 お待たせいたしました。続きまして、2つ目の議題、令和4年第5回川崎市議会定例会議案等について、福田市長から御説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 令和4年第5回市議会定例会の準備が整い、11月28日月曜日招集ということで、本日告示をいたしました。今定例会に提出を予定しております議案は、条例14件、事件22件、補正予算6件、報告1件でございます。

今議会の主な議案といたしましては、初めに、議案第194号「富士見公園再編整備事業の契約の締結」、及び議案第195号「富士見公園の指定管理者の指定について」でございます。富士見公園につきましては、都心における総合公園としての機能回復や、スポーツ・文化・レクリエーション活動の拠点機能の強化を図るため、本年1月に「富士見公園再編整備基本計画」を策定し、「緑・活気・憩い・ふれあいのある都心のオアシス・富士見公園」として再編整備する事業を進めております。その整備手法としてPFI方式を導入し、川崎市公募対象公園施設設置等予定者選定委員会の審査結果を踏まえて、落札者を決定いたしました。

議案第194号は、落札者である富士見パークマネジメント株式会社と契約を締結するものでございまして、契約金額は52億7,747万円、契約期間は令和25年3月31日までとなっております。

また、議案第195号は、同社を富士見公園の指定管理者として指定するものでございまして、令和5年4月1日から段階的に管理区域を広げ、令和25年3月31日

までを指定期間としております。富士見公園につきましては、次の１００年に向けて、より豊かな環境をつないでいく取組を推進するため、市制１００周年を迎える令和６年度に開催する「全国都市緑化かわさきフェア」のコア会場の一つとして整備を行うとともに、川崎らしい都市の中のみどりの価値を発信してまいります。

次に、議案第２０３号から第２０８号は補正予算でございます。このうち、一般会計の補正予算の内容といたしましては、まず、その１補正として、人事委員会勧告を踏まえ、一般職の給料と期末・勤勉手当などを増額するものでございます。

次に、その２補正として、事業者に対する燃料費の高騰分の助成や電気料金等の高騰による公共施設の電気料等の増額などの原油価格・物価高騰に対応するものや、新型コロナウイルス感染症対策を講じるもの、新本庁舎建築工事や橋処理センター建築工事の工期の延長へ対応するもの、来春行われる統一地方選挙の準備に対応するものなどでございまして、補正額は総額で４４億円余でございます。

また、特別会計及び企業会計の補正予算の内訳といたしましては、電気料金の高騰による公共施設の電気料を増額するものでございまして、補正額はそれぞれ総額で４，０００万円余及び２０億円余でございます。

なお、議案第１６９号の職員の給与に関する条例等の一部改正及び議案２０３号の補正予算は、職員の期末・勤勉手当の支給に関することから、他の議案と分割し、先行議決をお願いするものでございます。

また、追加議案といたしまして、川崎市資産公開等審査委員会委員の選任の人事案件１件を提出する予定でございます。

いずれの議案につきましても、川崎市政にとって重要なものばかりであります。市議会の皆様とは真摯に議論させていただき、両輪となって市政を運営してまいりたいと考えております。

私からは以上です。

【司会】 ありがとうございます。それでは、ただいま御説明いたしました２つ目の議題についての質疑応答に入ります。進行につきましては、幹事社各社の皆様、よろしく願いいたします。

【日経（幹事社）】 幹事社の日経新聞です。よろしくお願いします。今回、１２月の補正予算が、原油価格、物価高騰対策、これ、いろんな業界団体等からの要望ですが、今後も１月補正とか来年度予算に向けて、さらにこの部分、拡充していくというようなお考えをお持ちでしょうか。

【市長】 今後どうなっていくのかということ注視しながらなってくると思いま

すけれども、国の考え方も同時に、並行的にこれまでも進めてきておりますので、機動的に対応できるようにこれからも考えていきたいとは思っております。

【日経（幹事社）】 各社さん、よろしくお願いします。

【産経（幹事社）】 産経新聞です。補正の関係でお聞きします。ほかの自治体さんとかだと、物価高、これに対して直接消費者に還元するような施策をやっていたりするんですけれども、直接消費者に向けた、市民に向けた対策とかそういうのは今のところは考えてないですか。

【市長】 これまでも御案内のとおりでありますけれども、じもと応援券などという対応を現在も進行中でございますので、それ以外に今直接ということは現時点では考えておりません。

【産経（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

【t v k】 テレビ神奈川です。私からも補正について伺いするんですけれども、燃料費高騰に係る支援の事業が幾つかあるかと思うんですけれども、ここに目を当てたというところ、どういう思いで汲み上げたかを市長のお言葉で伺えればと思います。

【市長】 福祉関係の施設でありますとか子育て関係のところですか障害者の施設、こういったところがやはり物価高騰の影響を受けているということで、国からも事例が示されていることもあり、他の県内自治体との均衡もあったので、そういったところにしっかりと対応していかなくちゃいけないかと思っていて、同じ県内にありながら、施設のところで対応が異なるのもなかなか説明がつかない部分もあったりして、そういったところで対応したところもございます。交通関係だとか、もうとにかく今回の物価高騰は影響を受けないところが一つもない、全てのところに影響するものですから、どこをターゲットにしていくのかは非常に難しいところがございます。なぜここにというのは当然の御意見としてあると思いますが、必要最低限のところはさせていただいたと思っています。

【t v k】 ありがとうございます。

【司会】 ほかにございますでしょうか。

お願いします。

【t v k】 テレビ神奈川です。重ねて質問ですが、富士見公園の再整備の件なんですけれども、公園の整備というと等々力がどうしても注目度も高く規模も大きいので、そちらに注目が集まりがちなんです、富士見公園を再整備する意図、狙いをもう一言いただけたらと思います。

【市長】 先ほど申し上げたように、川崎駅に比較的近いところの大きな都市公園で

あるんですが、アンケート結果なんかを見ましても、聞いたことはあるけれども利用したことがないとかという方も結構いて、令和6年度の市制100周年に合わせて緑化フェアのコア会場にもなります。それに向けて、都市の中の緑の価値をどういうふうに上げていくかという中では、富士見公園の果たす役割って結構大きいと思っています。そういった意味での再整備、一体的な管理ということで、公園の魅力、価値を上げていきたいと思っています。

【t v k】 指定管理者はフロンターレも関わってくるということで、等々力と富士見公園と一体的に川崎市の公園としての整備というところもかなり期待が大きいわけですね。

【市長】 そうですね。かなり距離が離れているのであれなんですけれども、これまでもフロンターレ、富士通スタジアム川崎ですとか、指定管理を受けてくれていた部分もあるので、かなりノウハウができています。昨日も私、たまたま富士見公園にいたんですけれども、今回亡くなられた村田兆治さんのお悔やみのコーナーをつくっていただいたりという、いろんなソフトを組み合わせるのを非常に重視していただいていると思うので、そのノウハウが今回引き継がれるという形は大いに期待したいとは思っております。

【t v k】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに質問はよろしかったでしょうか。

それでは、こちらで議題に関する関係者は退室いたします。

《市政一般》

《地域医療審議会からの答申について》

【司会】 それでは、引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。進行につきましては、幹事社各社の皆様、よろしくお願いします。

【日経（幹事社）】 幹事社の日経新聞です。先日、地域医療審議会で、ぜんそくの助成に関しての廃止の提言というものがありませんでした。まだ答申前ではありますけれども、これについての市長のお考えをお聞かせ願いたいということと、また、これに関連して、公害病の患者・家族の会から市に対して話し合う場所を求めたいということをやっているとやらうようですけれども、これについて市は応じていく方針があるのかどうかをお聞かせ願えますでしょうか。

【市長】 まだ答申をいただいている形ではないので、そこをしっかりと踏まえてという形になると思いますが、個別の成人ぜんそくだとかという事業に諮問したわけではないので、アレルギー全般の施策、全体像をどういう方向性でやっていくべきなのか

ということについての答申をいただくとおっしゃいますので、そういった意味では、しっかりその方向性を示していくことが大事かとおっしゃいます。

それから、患者の会との話についても、社会保障推進協議会などを通じて、これまでも文書で質問をいただいて、それもしっかりと丁寧に文書でお返ししているという経緯もございますので、これからもそういった対応をさせていただきたいとおっしゃいます。

【日経（幹事社）】 各社さん、よろしくお願いします。

【読売】 読売です。今の関連で団体側は、書類でなくて話をしたいっておっしゃっているようなんですよ。そこに違いが感じられないのか、どうなのでしょうかね。その辺の見方によってなんですけど、文書で出せというのは、何となく冷たい感じがしちゃう場合もあるかな。

【市長】 いや、これほど誠実なやり方はないとおっしゃいます。これまで、もう繰り返し文書でいただいている内容、もし追加がありますれば、ぜひそのことについても文書でいただければ、それをしっかりお答えさせていただくと申し上げておっしゃいますので、機会を閉ざしているとか、お話を聞かないとかという話ではないので、そういうやり方は適切かとおっしゃいます。

【読売】 それは、担当者の方がそういう対応を考えていらっしゃるんですかね。

【市長】 担当者というか、市の考え方ということです。

【読売】 分かりました。

【司会】 ほかに御質問いかがでしょうか。

《改正公職選挙法成立に伴う選挙区の区割り変更について》

【産経（幹事社）】 産経新聞です。先日可決された衆院選の区割りの件、答申のときに一度市長からコメントを出していただいているんですけども、今回、区の分割が解消される一方で、横浜市と川崎市がまたがる19区というのができますけれども、改めてこれについての所感とか考えを教えてください。

【市長】 そもそも川崎市の考え方として、市域をまたがるのは一番勘弁してほしいという意見を県知事にも言っていたことからすると、そういった形に、結果として国のほうでならず、大変残念だとは思っています。過去、横浜市と選挙区が一緒だった時期もあって、それも住民の皆さんからすると非常に混乱を招いていましたし、行政側としてもどういう対応をすべきなのかというのは非常に大変だったこともあるので、ただ、こういう答申が出た以上、受け入れざるを得ないので、そういう意味では、しっかりと遺漏のない準備はこれからしていかなきゃいけないし、住民の皆さんにも

しっかり広報しないと、これまで選挙区だったところ、１９区だけでなく、市全体に選挙区割りに関わってきてしまうので、今まで候補者だと思っていた人が候補者じゃなくなるとかという話は、いろんなところで玉突きで影響が出てくるものですから、そういった意味では丁寧な広報は必要になってくるかと思っております。

【産経（幹事社）】 ありがとうございます。

【司会】 ほか、いかがでしょうか。

それでは、以上をもちまして定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

（以上）

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

（お問合せ）川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：０４４（２００）０３１２